

安曇野市文書館開館5周年記念「受け継がれる地域資料」
(2023年9月14日～12月28日)

松澤 果穂

1 はじめに

安曇野市では、平成21年度から安曇野市域に関する古文書等の「地域資料」の調査・整理作業を進めている。今年で14年目となり、古文書をはじめ、絵図や古写真、映像資料など多くの資料が文書館に収蔵されている。これらは、旧町村から安曇野市に引き継がれたり市内外の多くの方から寄贈・寄託していただいたもので、整理・保存後、文書館収蔵資料として公開している。

今年、当館は開館5周年を迎えたが、知名度はまだまだ低く、文書館がどのような活動をしているのか、どのような資料を収蔵しているのか知らない人も多い。また寄贈・寄託者の中にも、どのような過程を経て、寄贈又は寄託した資料が公開されているのか知らない方もいるだろう。

そこで今回の展示では、地域資料調査の歩みを振り返るとともに、当館における地域資料の収集から公開までの過程を紹介するものとした。また、どのような資料があるか紹介することにより、文書館の利用を促すことを目的とした。

2 地域資料とは

当館では「公文書」に対して、個人、法人、団体等が所有する文書、刊行物その他の記録を「地域資料」と呼んで管理している（安曇野市文書館条例第2条）。これらの資料は、寄贈もしくは寄託、又は購入により収集しており（安曇野市文書館条例第9条）、安曇野市文書館条例施行規則第4条別表第2にある地域資料を収集する基準に則り行っている。

2023（令和5）年4月時点で79,174点を収蔵しており、同年9月時点で文書群としては161件、資料数としては45,147点を公開している。なお、公開中の資料群については、本号98ページに一覧を掲載している。文書目録は市ホームページで見ることができる。

3 調査活動の歩み

(1) 文書館開館まで

安曇野市では、平成21年度から地域資料の調査活動が始まった。同年に穂高交流学習センター「みらい」が開館し、地域学習室の中に「郷土史研究室」を設置。ここでは、専門職員が地域の歴史に関する問い合わせに対応したほか、日常業務として地域資料の収集・整理を始めた。

整理作業は、保管場所の確保ができなかったため、

大分類	小分類	基準
(1) 地域の推移や行政運営上の意思決定等がわかるもの	ア 古文書又は古記録に分類されるもの	(ア) 江戸時代以前の支配及び明治以降の町村制に関するもの (イ) 土地の管理に関するもの
	イ 近現代資料に分類されるもの	(ウ) 租税に関するもの (エ) 江戸時代以前の村若しくは明治以降の町会及び自治区に関するもの
(2) 地域の地理的、社会的又は文化的な形成過程がわかるもの	イ 近現代資料に分類されるもの	(オ) 人口に関するもの (カ) 水利に関するもの (キ) 土木事業に関するもの (ク) 農業及び産業に関するもの (ケ) 交通に関するもの (コ) 林野の管理に関するもの (サ) 商業及び工業に関するもの (シ) 金融に関するもの (ス) 寺社に関するもの (セ) 宗教及び信仰に関するもの (ソ) 教育活動に関するもの (タ) 文化活動に関するもの (チ) 災害に関するもの (ツ) 民生及び衛生に関するもの (テ) 生活の様子がわかるもの (ト) 社会情勢がわかるもの (ナ) 人物同士の交流がわかるもの (ニ) 前各号に掲げるもののほか、市誌編さん事業に欠くことができないと教育委員会が判断するもの (ヌ) 上記に掲げるものに付随する物品
		ウ 典籍に分類されるもの
(3) 後世に大きな影響を与えた市域にゆかりのある個人に関するもの	イ 近現代資料に分類されるもの	(オ) 人口に関するもの (カ) 水利に関するもの (キ) 土木事業に関するもの (ク) 農業及び産業に関するもの (ケ) 交通に関するもの (コ) 林野の管理に関するもの (サ) 商業及び工業に関するもの (シ) 金融に関するもの (ス) 寺社に関するもの (セ) 宗教及び信仰に関するもの (ソ) 教育活動に関するもの (タ) 文化活動に関するもの (チ) 災害に関するもの (ツ) 民生及び衛生に関するもの (テ) 生活の様子がわかるもの (ト) 社会情勢がわかるもの (ナ) 人物同士の交流がわかるもの (ニ) 前各号に掲げるもののほか、市誌編さん事業に欠くことができないと教育委員会が判断するもの (ヌ) 上記に掲げるものに付随する物品

安曇野市文書館条例施行規則より別表第2
(第4条関係)

古文書を1点1点撮影して画像資料で収集し、原本は返却するというやり方で行われた。そして、その写真をもとに穂高古文書勉強会（現在の安曇野古文書勉強会）の方々に目録用のデータ（資料名、年月日、出所…等）をとる作業をしていただいた。その成果は、所有者ごとの古文書目録としてまとめられた。文書目録は市内図書館でも閲覧できる。



調査風景



文書目録

（2）文書館開館後

当館が開館してからも調査活動は引き続き行っている。文書館が開館したことにより、地域資料の保管場所（書庫）ができたので、今は返却を前提にせず、なるべく寄贈・寄託を受け入れている。

受け入れた資料は、当館の職員が整理を行うほか、週に1度、安曇野市誌編さん専門調査会地域資料調査部会を開き、古文書の調査・整理作業を行っている。また調査員には、当館で開催している古文書初級講座の講師としても協力していただいている。

また当館には、旧町村誌を作成する際に集められた資料もある。その多くが写真やコピーなどで複写した後、原本は所有者へ返却していた。当館ではこれらの資料の所在調査を行うとともに、所有者に連絡を取り、改めて文書館で利用できるよう許諾を得る作業を行っている。その際に、「文書館に預けたい」と原本を寄贈・寄託してくださる方もいる。

そして、当館が開館してからの新たな取り組みとして、区有文書の調査と空き家所有者への呼びかけを行っている。まず区有文書の調査では、区長会（各区の代表者が集まる会議）で呼びかけを行うとともに、調査を希望する区においては現地へ赴き文書の引取や整理のアドバイス等をしている。今年度は豊科地域の区を対象にアンケート調査も行った。当館では今後も呼びかけを続けるとともに、区の財産である文書などを残せる場として、地域の歴史・記録を伝える場として機能していきたい。また近年、古文書や古写真がネットオークションなどに出品されている事例が多くみられるようになってきた。そこで当館では資料の流出を防ぐため、空き家所有者への呼びかけを行っている。世代交代や空き家・土蔵の取り壊しにより、資料が散逸の危機に瀕している。当館は開館から5年ということもあり、まだまだ認知度は低い。資料の所有者が相談できる場として文書館を認知してもらえよう努めていきたい。

その他にも、博物館や図書館にあった文書資料や古い行政資料を順次、当館へ移管している。収集した資料は今後、展示や市誌編さん事業などに活用していく。資料をお持ちの方は、ぜひ文書館にご一報いただきたい。

目録発行年月と安曇野市文書館開館までの歩み

年月		出来事
平成21年	10月	文化財保護事業として、市内の民家等に保存されている古文書資料の調査と整理作業を開始する。
平成22年	3月	「牛流家文書目録」発行
平成23年	3月	「林家文書目録」発行
	5月	「古幡家文書目録」発行
平成24年	3月	「細田家文書目録」発行
	3月	「藤森家（藤野屋）文書目録」発行
	7月	安曇野市本庁舎建設推進事業として、公文書整理室を設置し、非現用文書の収集と整理作業を開始する。
平成25年	3月	「等々力孝志家文書目録」発行
	3月	「下長尾区文書目録」発行
	3月	「笠井家文書目録」発行
	11月	「西澤家文書目録」発行
平成26年	3月	「水谷家文書目録」発行
	8月	「古川家文書目録」発行
	9月	「潮神明宮文書目録」発行
	9月	「安田家（白木屋）文書目録」発行
平成27年	3月	「藤森家（おやかた）文書目録」発行
	8月	「藤森家（おかしら）文書目録」発行
	10月	「望月家（大長）文書目録」発行
	11月	安曇野市新市立博物館構想に文書館の必要性を明記する。
平成28年	3月	「百瀬宗治家文書目録」発行
	6月	旧堀金公民館及び堀金図書館施設を改修し、文書館とする方針を示す。
	8月	「望月家文書目録」発行
平成29年	3月	「飯沼家（大東）文書目録」発行
	5月	安曇野市文書館業務検討委員会を開催する。（9月まで計4回）
	8月	安曇野市堀金公民館講堂・文書館改修工事着工
	9月	安曇野市文書館業務検討委員会が「安曇野市文書館開館に向けた提言書」をまとめる。
平成30年	3月	安曇野市堀金公民館講堂・文書館竣工
	3月	「二木家（本塩屋）文書目録」発行
	4月	安曇野市文書館条例及び安曇野市文書館条例施行規則を制定する。
	10月	安曇野市文書館 開館
令和元年	11月	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第45回全国（安曇野）大会開催
令和2年	3月	「松岡家（太田屋）文書目録」発行
	4月	安曇野市誌編さん事業開始
令和3年	1月	「矢花家文書目録」発行
	4月	区有文書の調査開始
令和4年	3月	「藤森家（問屋）文書目録」発行

4 資料受入～整理～保存～公開・閲覧までの流れ

ここでは、当館における地域資料の受け入れから公開・閲覧までの流れを簡単に紹介する。当館の運営審議会でも、「文書の調査といっても何するのかわからず、不安もあり相談しづらいところもあると思う。具体的に調査方法などを明記すれば、安心して相談もしやすくなるのではないか」という意見をいただいた。資料を寄贈又は寄託しようか迷われている方がいたら、参考にしていただきたい。なお、寄贈・寄託に係る手続きについては省略している。



資料調査の様子

(1) 相談・調査

寄贈又は寄託したいといった相談はもちろんのこと、「廃棄しようと思うが捨てるのがかわからない」、「古文書にあたるかわからないがこんなものが出てきた、とりあえず一度見てほしい」といった相談でも構わないので、気軽に問い合わせさせていただきたい。文書館職員が現地へ直接、調査に出向くこともある。

(2) 資料の受入・燻蒸・清掃作業

受け入れた資料に、埃やゴミ、カビ、虫などが付いている場合は、燻蒸作業と埃を落とす作業を行っている。これにより、資料の劣化や生物被害を予防している。

(3) 整理・目録用データの収集・写真撮影

文書1点1点に番号をつけ、所有者や出所別に資料群を分けて整理を行っている。そして「いつ・どこで・誰が・何のため」に書いた文書なのか記録する。また、資料の撮影を行い、検索システム上で資料が見られるように作業を進めている。

「家」文書目録カード								
史料番号	分類番号	年月日	西暦	史料名	出所	宛所	形態	備考

目録用データ収集の際に使う「目録カード」

(4) データベースへの入力

収集した目録情報をデータベースに入力する。資料の検索や目録が印刷できるようになる。

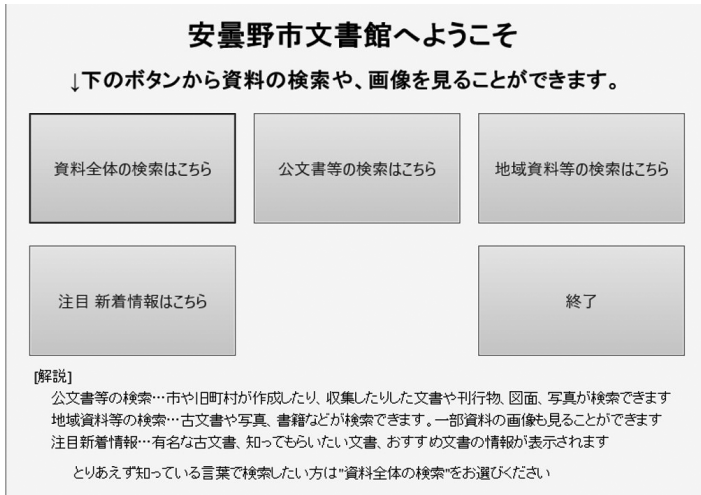
(5) 書庫へ保管

整理が済んだ資料は、中性紙の「もんじょ箱」に入れ、書庫で保管している。書庫内は温湿度が管理され、カビや虫の発生を抑えている。また、資料は中性紙の封筒に1点ずつ入れている。



地域資料を保管している書庫

(6) 資料・目録の公開



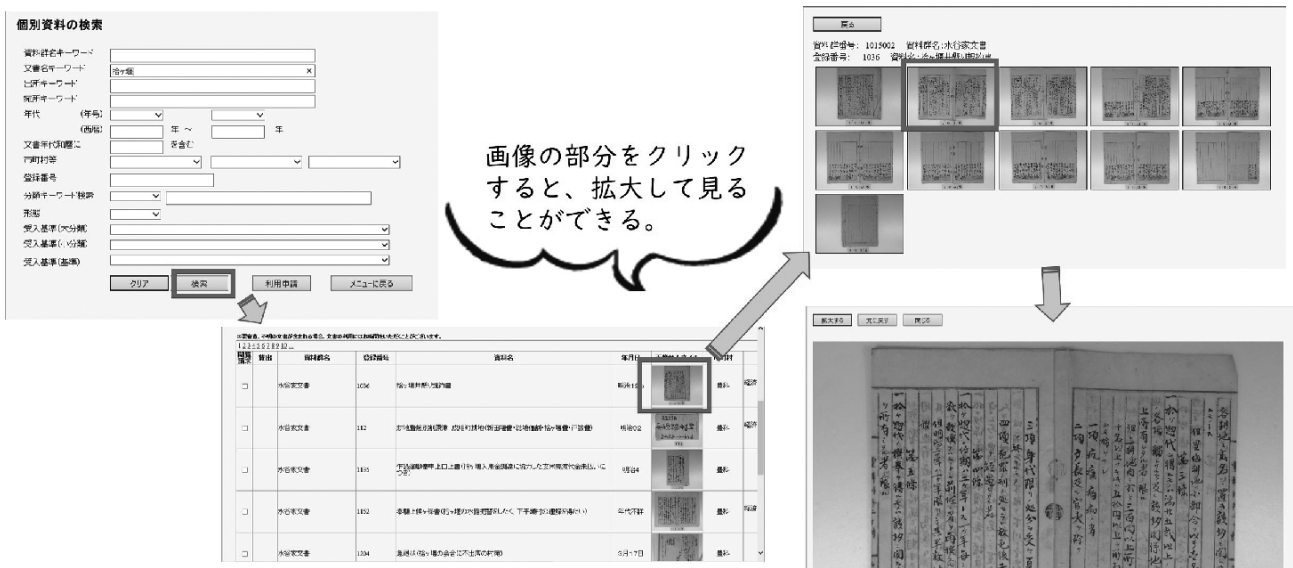
文書館文書管理検索システムトップページ

資料の整理、データベースへの入力作業が終わると資料を公開する。公開している資料は、館内にある「文書館文書管理検索システム」で検索できるほか、市ホームページに目録を掲載している。

なお、資料を公開する際には、個人情報に配慮している。また、寄贈者・寄託者より申し出のあった資料や劣化が激しい資料についても、利用を制限している場合がある。(安曇野市文書館条例施行規則第8条)

(7) 資料の閲覧

①「文書館文書管理検索システム」または「文書目録」から閲覧したい文書を探す。資料の一部は検索システムで画像を見ることができる。



②画像が用意されていない資料を見たい場合、パソコンでの閲覧が不便な場合、資料の「写しの交付」や「カメラによる撮影」を希望する場合は、「重要文書等利用申請書」により資料の原物や複写物を閲覧できる。(1度に申請できる点数は5点まで)

③ 閲覧コーナーで資料を見る。

閲覧コーナーには、旧町村誌や辞書などの参考資料もあり、自由に見ることができる。

5 資料紹介

ここでは、当館収蔵資料の中から代表的なものを紹介する。当館を利用する際の参考としていただきたい。

(1) 安曇野市有形文化財

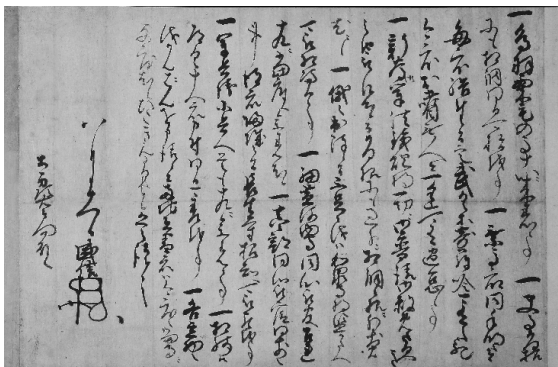
当館の収蔵資料の中には、市の有形文化財に指定されているものがある。市教育委員会が寄贈を受けて原本を所有していたり、原本または画像データの寄託を受けているものがある。下記以外にも、大庄屋関氏文書（2293点、寄託）、潮神明宮の日岐盛直神田寄進状（寄託、潮神明宮文書）、井口喜源治関係文書（寄託、井口喜源治記念館資料）がある。

・松澤求策関係資料（279点、寄贈）

「自由民権運動のリーダー」と呼ばれる松澤求策に関する資料。旧穂高町が寄贈を受け管理していたもので、国会開設の請願書、日記、書簡等がある（穂高商会関係資料も含む）。当館では、2018（平成30）年に「松澤求策と国会開設運動」と題し企画展を行った。企画展の詳細は、『安曇野市文書館紀要第1号』に掲載している。

・等々力孝志家文書（1,298点、寄贈）

等々力孝志家文書は、総点数1,928点を数え、特に江戸時代前期の文書が多く保存されている。そのうち3点が市の有形文化財に指定されており、中世文書が2点含まれている。

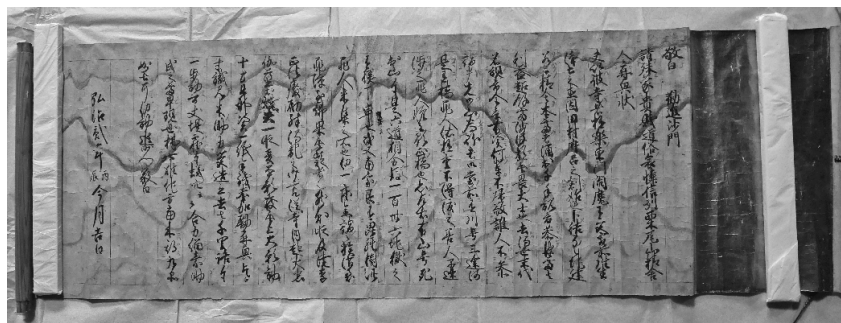


仁科盛信書状(資料L1 1580(天正8)年カ)
合戦の軍役・出陣の指示
細萱氏・真々部氏らにも出陣を命ず

・^{まんがんじ}満願寺文書（22点、寄託）

栗尾山満願寺に伝わる戦国時代から江戸時代にかけての古文書22点。

焼失した伽藍再興のための資金や資材を集めるための勸進状（弘治2年）や、織田信長の朱印状、深志城（松本城）城主の小笠原貞慶の黒印状などがある。



満願寺勸進状（資料1 1556（弘治2）年）

(2) 古文書

文書館にある地域資料の大半が「古文書」と呼ばれるものである。今回の展示では、文書館が開館してから刊行された文書目録（藤森家（問屋）文書目録・矢花家文書目録・松岡家（太田屋）文書目録）を中心に紹介した。

・藤森家四家の文書

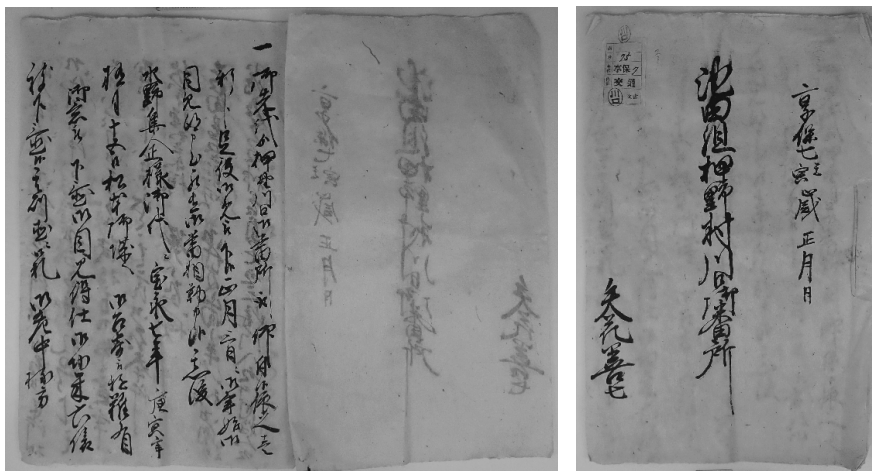
市教育委員会では、藤森家（藤野屋）文書目録（2012（平成24）年3月）、藤森家（おやかた）文書目録（2015（平成27）年3月）、藤森家（おかしら）文書目録（2015（平成27）年8月）、藤森家（問屋）文書目録（2023（令和4）年3月）を刊行した。この四家は親類関係にあり、江戸時代に成相新田町村が発展していくと共に、それぞれの家が地域で役職を担っていた。そのため、藤森四家の文書を総合的に分析することにより、江戸時代の成相新田町村の様子がより深く見えてくる。

（令和5年9月現在の資料点数）

藤森家（藤野屋）	代々「与兵衛」を名乗る。成相新田町村の庄屋を務める。江戸後期には数軒に分かれ、その中には藤森寿平（桂谷）の家もある。	308点
藤森家（おやかた）	代々「善兵衛」を名乗る。成相組大庄屋を務める。江戸時代後期には、十返舎一九と交流があり、拾ヶ堰開削に関わった藤森善兵衛が当主を務めた。	1,256点
藤森家（問屋）	代々「新之丞」を名乗る。系魚川街道新田宿で問屋を務め、成相新田町村の庄屋を務めた時期もある。近代には当主 藤森馨が豊科町長に就任した。	4,036点
藤森家（おかしら）	江戸時代の始めに問屋から別家した。成相組新田町村の村役人を務めた。（縁家である田沢村花村家の文書を含む。）	202点

・矢花家文書（資料数4,510点、寄贈）

矢花家文書は、押野村改所（押野川口番所）の番人を務めていた矢花家が所持していた文書群。押野村改所は、松本藩領から犀川を通して川中島へ木材を輸送するための番所である。文書は全体で4,510点あり、その大半が筏の手形等の運輸に関する文書で4,057点ある。



池田組押野村川口御番所（由緒書）（資料75 享保7（1722）年）

矢花家が松本藩に提出した由緒書。代々、押野川口番所の番人を務めてきた経緯が書かれている。

・松岡家（太田屋）文書 （資料数1,305点、寄贈）

三郷の松岡家（太田屋）に保管されていた文書群。松岡家は、1733（享保18）年より1869（明治2）年までの136年間、下長尾村の庄屋を務めた家である。この文書群の中には、下長尾村地方役人関係の文書と松岡家の自営（営農・金融・習俗・書翰）の文書がある。特に、年貢に関する文書は収納・皆済の記録がまとまっており、年貢勘定帳・年貢庭帳により1869（明治2）年までの状況を知ることができる。

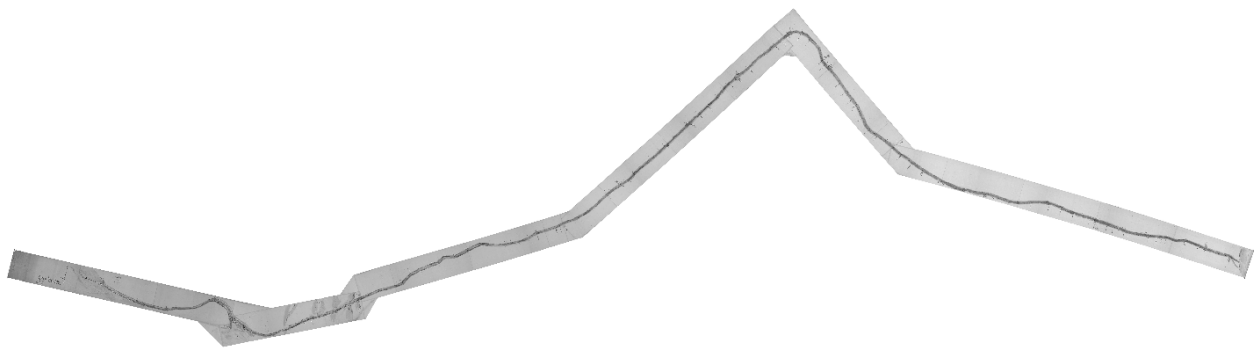
（3）絵図

絵図はサイズが大きいものから小さいものまであり、状態も資料によって異なる。当館では、状態の悪い資料や使用頻度の高い資料は、資料の劣化を防ぐため複製品を作成し、閲覧してもらうようになっている。「筑摩県管轄信濃国安曇郡拾ヶ堰絵図」、「(烏川山出入絵図)」、「(岩原村北部絵図)」については原本の特別公開も行い、市民への周知と文書館の認知度向上につながった。

・筑摩県管轄信濃国安曇郡拾ヶ堰絵図

明治初期に描かれた拾ヶ堰の図面。用水の取り入れ口や、他用水等と交わる部分の造作が細かく描かれている。全長は約12mで、単なる直線ではなく、拾ヶ堰の流路の方向に紙が貼り継ぎされている。

検索システムで画像が見られるほか、実物大の複製品を見ることができる。



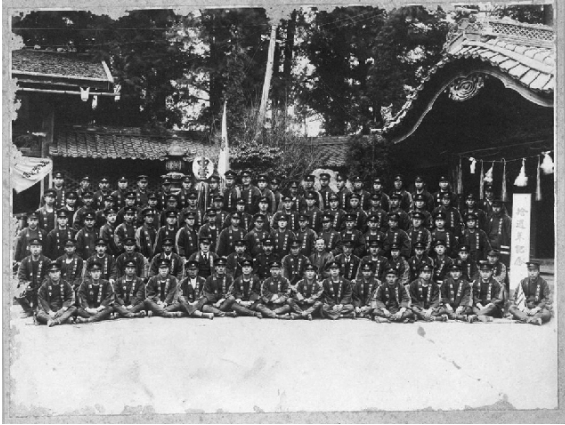
【絵図全景】



【署名と取り入れ口】

(4) 写真

文書館では古文書や公文書などの「文書」のほかに、写真や映像資料も収集・保管している。それらも過去の安曇野市の姿を映した貴重な資料の1つである。過去の風景・行事・災害などの様子が写っている写真があれば、ぜひ文書館へご一報いただきたい。



中萱消防組十周年記念集合写真
(本田家資料5 1927(昭和2)年4月)



福俵曳き
(酒井伸治氏資料77 年代不明)

(5) 人物顕彰

当館は、安曇野市にゆかりのある先人たちの顕彰の役割を担っており、穂高出身の松澤求策や清澤洌、会田血涙、堀金出身の臼井吉見、豊科出身の飯沼正明など、ゆかりの人物に関する資料も収集対象としている。

・上原良司資料(資料数103点、寄託(複写物))

「自由主義に生きた特攻隊員」上原良司ゆかりの資料は、上原家が保管してきたもので、文書館にその複写物が寄託されている。資料群には、遺書をはじめ、アルバムとして残されていた写真類、「戦陣手帳」・「修養反省録」等の手帳類、愛読書の『クロオチェ』などがある。令和4年度後期企画展「安曇野から平和を思う ～上原良司生誕100年～」では、これらの資料を活用した。詳しくは『安曇野市文書館紀要第4号』をご覧ください。(第4号のみ市ホームページでPDFを公開している)

・清澤洌資料(資料数141点、寄贈)

戦前・戦中に活躍したジャーナリスト 清澤洌ゆかりの資料。資料群には、清澤の戦時中の日記である『戦争日記(暗黒日記)』の原本4冊のほか、著作や論文がある。また、幣原喜重郎・吉田茂・芦田均・石橋湛山からの書簡類や、アルバムやスクラップブック、取材時に携帯していたプレスカードなども含まれている。令和3年度前期企画展「多元主義社会を生きる～自由主義擁護の旗手 清澤洌の思想を通して～」では、これらの資料を活用した。詳しくは『安曇野市文書館紀要第3号』をご覧ください。

・会田血涙資料と『信濃不二』

(会田血涙資料:625点(寄贈) 『信濃不二』:合冊33冊 全462号(寄託))

会田血涙は本名 会田貢と言い、明治末期から昭和前期に活動していたジャーナリストである。会田血涙や家族が収集した書籍類や、血涙の喜寿の祝いに作成した屏風などがある。『安曇野市文書館紀要

第3号』に文書目録を掲載している。

・務台理作資料（資料数47点、寄託（複写物））

温村（現、三郷温）出身の哲学者 務台理作に関する写真資料。学生時代から晩年までの写真がある。

・井口喜源治記念館資料（35点、寄託（複写物））

井口喜源治記念館に収蔵されている資料の複写物を文書館に寄託していただいたもの。「研成義塾設立趣意書」や「禁酒会記録」、相馬愛蔵・黒光結婚式招待状等がある。



禁酒会記録（右は1896（明治29）年10月19日の記載）
（井口喜源治記念館資料13 1891（明治24）年～1974（昭和49）年）

務台理作資料29
（1953（昭和28）年）

・臼井吉見関係資料

小説『安曇野』を執筆した臼井吉見に関する資料も文書館に多く寄贈されている。臼井の次女増澤フユミ氏が所有していた臼井の遺品や、臼井吉見文学館の指定管理者であった「ほたるぶくろの会」が臼井吉見関連資料として入手したものがある。その他、臼井自筆の色紙や書簡、小説『安曇野 第五部』の初版本等もある。また、小説『安曇野』、『獅子座』の生原稿も当館で保管している。

【公開中の臼井吉見関係資料群】

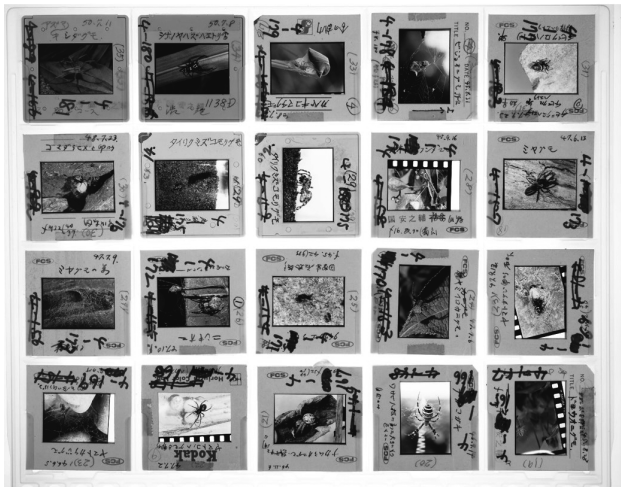
- ・臼井吉見文学館資料【寄贈】※整理中
- ・臼井吉見文学館資料（ほたるぶくろの会）【121点、寄贈】
- ・臼井吉見文学館資料（増澤フユミ氏資料）【144点、寄贈】
- ・臼井吉見文学館資料（青柳照子氏資料）【1点、寄贈】
- ・臼井吉見文学館資料（田中宏隆氏資料）【1点、寄贈】
- ・臼井吉見吉田氏宛資料【63点、寄贈】
- ・臼井吉見横澤氏宛資料【18点、寄贈】
- ・橋渡良知氏資料【9点、寄贈】



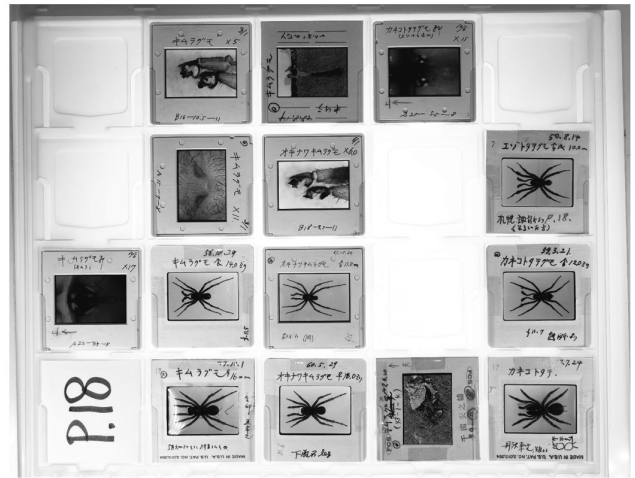
臼井吉見文学館資料（増澤フユミ氏資料）3-5

・千国安之輔氏資料（74点、寄贈）

クモ研究家の千国安之輔が撮影したクモ昆虫写真のスライドである。中には、『写真・日本クモ類大図鑑』や『豊科町誌』で使用されたものもある。



豊科町誌「クモ類」返却図版（スライド）
（資料52 1995（平成7）年）



日本クモ類大図鑑 1
（資料22 1971（昭和46）年）

6 おわりに

今回の展示で紹介した内容は、文書館事業のほんの一部である。文書館に収蔵されている地域資料はどれも、それぞれの家に伝来し、大切に保管されてきたものだ。文書館ではこれらの資料を受け継ぎ、後世に残すための活動を続けていきたい。また、先にも述べたように近年、古文書や古写真がネットオークションなどに出品されたり、空き家の取り壊しなどにより資料が処分されたりする事例が多くみられるようになってきた。企画展示や講演会・講座などにより文書館の存在意義や役割を知ってもらうことによって、少しでも資料の散逸や滅失の歯止めになればいいと思う。

そして市民の皆様をはじめ多くの方に、ぜひ文書館の資料を活用していただくとともに、ご自宅などに資料がある方は文書館へご相談いただきたい。

最後に、安曇野市文書館へ資料を寄贈・寄託していただいた皆様および資料の調査・整理作業に御協力いただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



企画展関連講座「里山の観音信仰 ―古文書にみる栗尾山満願寺の心象風景―」

1 趣旨

安曇野市域やその周辺には、観音霊場として信仰を集めた寺や堂が点在していた。文書館が収蔵する古文書や現地の様子から、江戸時代の安曇野の里山に展開された観音信仰のあり様を探る。

2 日時

2023（令和5）年9月24日（日） 午後1時30分～午後3時

3 講師

逸見 大悟（安曇野市教育委員会文化課職員）

*この講座の記録は、当館収蔵記録DVDにより文書館多目的室で視聴できる。

企画展関連講演会「地域歴史資料保全の現状と課題 ～地域の歴史と文化は遺せるか～」

1 趣旨

長野県内で行った資料調査の事例を交えながら、民間所在資料の保存を行う意義について理解を深める。

2 日時

2023（令和5）年10月22日（日） 午後1時30分～午後3時

3 講師

西村 慎太郎 氏（国文学研究資料館教授）

*この講演会の記録は本号87ページより掲載している。

企画展関連講座「在方から見た松本大変 ～松本藩主交代劇～」

1 趣旨

1725（享保10）年7月松本藩城主水野氏が江戸城で刃傷事件を起こし改易され、翌年戸田氏^{にゅうほう}が入封した。この経過を山口家文書と文書館所蔵文書により追うことで、この事件が在方（郡下村々）に及ぼした影響について明らかにする。

2 日時

2023（令和5）年11月19日（日） 午後1時30分～午後3時

3 講師

丸山 潔（安曇野市文書館職員）

*この講座の記録は、当館収蔵記録DVDにより文書館多目的室で視聴できる。